

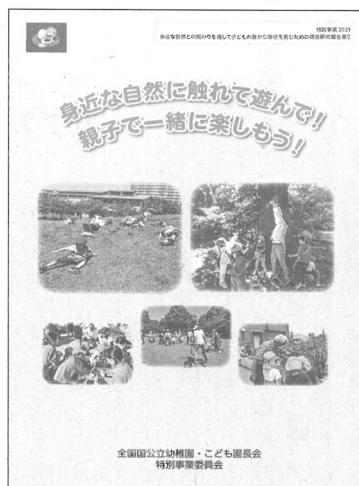
身近な自然と触れ合う事例紹介

全国公立幼稚園・こども園長会(会長 眞輪 恵美・東京都中央区立有馬幼稚園園長)が令和元年度と2年度の2年間で取り組んだ「身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究―身近な自然に触れて遊んで！ 親子で一緒に楽しもう！」。事業を進めた特別事業委員会(委員長 渡部佳代子・東京都江東区立第五砂町幼稚園園長)がまとめた報告書では提言に基づき実践事例を紹介するとともに、幼稚園・こども園の果たす役割をまとめている。

国公幼 調査研究報告書 ①

中で、より豊かで身近な自然と関わる経験ができるように遊びや環境を工夫しよう②幼児期に、身近な自然に関わり遊ぶ大切さを保護者と共有し、親子で自然との触れ合いを楽しめるようにしよう③地域の環境を活用し、親子で身近な自然との触れ合いを積極的に楽しめるように発信しよう―の「三つの提言」に基づく実践。

提言2に基づき実践事例は、4歳児5月〜12月の「枝豆に触るとちょっとくすぐったい」親子で枝豆の栽培・味噌作り。この園では「栽培を通して身近な自然への興味と関心を持ってほしい」「親子で共通の体験を楽しんでほしい」という願いから、親子で枝豆の栽培を行っている。



「身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究」の報告書の表紙

豆の栽培をしている。5月に親子で一緒に種まきをした後、発芽や葉の成長、開花、なった実などの様子に触れ、子どもたちは「枝豆に触るとくすぐったい」などと気付いたことや感じたことを友達や保育者、保護者に伝える姿が見られた。7月には収穫した枝豆を園や家庭で食べ、その後は枝豆が成熟してできた大豆を使い、親子で味噌作りを行った。

枝豆の成長、子どもが枝豆との触れ合いを楽しんでいる様子は、降園時の話や学級便り、掲示、動画、園のホームページなどで伝えられた。そうしたことにより、降園後に親子で枝豆を見ながらかわいい花が咲いたね」「小さい枝豆ができているね」などうれしそうに話す姿が見られた。

講師招き近隣公園で「教室」

園内外と協働、地域資源活用

提言2と提言3に基づく実践事例は、4、5歳児8月の「親子で身近な自然を観察しよう」。この園は、近隣の公園で毎年「親子自然教室」を兼ねた遠足を実施している。講師に自然観察の専門家を招いており、

分自身とても楽しかった」などと、家庭での様子や保護者の感想が聞かれた。担任保育者は寄せられた感想や日頃の子どものたちの具体的な姿を基に、幼児期に親子で自然との触れ合いを楽しむ重要性について、改めて学級全体の保護者に話した。

この実践事例から「親子で身近な自然に触れた共通の体験をすることにより、子ども、保護者、保育者が心を動かされる場面に出合い、感じたことや考えたことを伝え合う喜びを感じ、それらの感動体験を園と家庭で共有することができていること」「味噌作りなど、さらなる豊かな体験が得られる機会を設けたことで、親子の自然との関わり、子どもの好奇心・探究心がより深められていること」が必要」とした。

エンターテインメントも実施し、このことから「地域の資源を活用し、子どもの心を揺り動かすような豊かな体験が得られる機会を積極的に設け、地域に親しみの気持ちを持つようにつくることが必要」としている。◇ これまでの調査研究の成果を受けて特別事業委員会では、身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための幼稚園・こども園の役割を「地域の特性を生かした自然体験の機会を増やす」「自然との関わりについて保護者に積極的な発信を行う」とまとめている。